

上風連の子



No.9 令和元年 10月23日(水) 発行責任者 校長 太田 等

学校ブログのアドレス <http://www.aurens.or.jp/kids/>



実りの秋 一日一日を大切に

校長 太田 等

令和元年度学芸会は、多くの皆様のご協力等によりまして、無事に終了することができました。ご多用の中にも関わらず、多くのご来賓、地域の方、そして、ご家庭の皆様においでいただき、誠に有難うございました。今年の学芸会は、ご観覧くださった多くの皆様方から、「素晴らしい学芸会でした」等の声を数多くいただいたように、子ども達の「挨拶」「音楽」「劇」「遊戯」等、どれも素晴らしい発表となりました。



私もお来賓の皆様と鑑賞しておりましたが、胸が熱くなる場面が何度もありました。本校はこの学芸会の成果を今後の子供達の成長にしっかりと繋げて参ります。

さて、学芸会の最後の挨拶で6年生が「一日一日を大切にしていきます」との決意を述べていました。

～ 一日一日を大切にする ～ とてもよい言葉です。私は感動を覚えました。

6年生は、残りの小学校生活が半年を切ったので特に「一日一日を大切に」にしてもらいたいと深く願っております。過日、全職員と学芸会後を充実したものとするために以下のことを確認しました。

教育は、子どもの無限の可能性を信じることから始まります。信じられなくなったら、子どもの教育ではなくなります。したがって、子どもと接する中で、私たちが自らに問いかけることは

- 一人ひとりの子ども達の可能性を徹底して「信じぬく」慈しむ心と子どもを一人の人間として見る誠実さのある言動であるかどうか。
- 学習の優劣や家庭環境などで対応が変わるのではなく全ての子ども達を「ありのまま受け入れる」大海のような広い心をもつ努力をしているかどうか。
- どんなことがあったとしても笑顔で「励まし続ける」豊かな智慧とその子の成長を第一に考える温かい真心があるかどうか。
- たとえ一時は子どもに反発・反抗されたとしても切り捨てず「どこまでも子どもを支え続けようとする」確固たる信念をもっているかどうか。

(4月1日付 2019年度の上風連小学校を「創る」共通項目の「8」から)

この「意識」が子どもの自分らしさを発揮させ自ら学び、そして、学ぶことの楽しさを知り更には、友達や保護者、地域の人たちとも学びを深めることの醍醐味を覚えさせていきます。

また、もう1つは、「特に学芸会後は、目標を明確にしていましょう」ということです。学芸会等が終わり、目標がないことから、「11月から年末にかけては様々な問題が多く発生する月」と言われています。

その原因は、これまでの取り組みが思ったようにいかなかったなどのモヤモヤ感だと言われています。それが、他者に向けられ、人間関係の分断が始まります。「分断」は、不平、不満、憎悪、悪口、偏見、侮辱、差別といった「悪」につながります。しかし、それらの本質は全て、「心の弱さ」と言われています。この心をいかに「強く」「豊かに」「賢くする」かが、私たち大人の大きなテーマであり、教育をするという本来の意味です。

8月下旬根室管内PTA研究会分科会《テーマ「子どもの生きる力と大人の社会力」》において、NPO法人お助けネット代表の中谷氏は、ある方の質問に対して次のように述べておりました。

携帯などにおいても子どもの前では、絶対に担任や他人の悪口を言ってはならない。ある集会などに出かけ、自ら意見を言わず、人の言った意見を後になって、仲の良い友達だけで、批判したり、噂話にしてはならない。なぜか。それを耳にした子どもは、人を信じることができなくなるからです。「どうせ、正しいことを言っても、本当のことを言っても、実はまじめに聞いていないんだ」という不信感を植え付けてしまうからです。では、大人は子ども達のいる時に何を話したらよいのか。それは、「人の役に立つ喜びを語ること」です。「大人が社会力を発揮していく喜びを語る」ことです。

季節は、実りの秋です。子ども達のこれまでの努力が実り、豊かな心を伸び伸びと向上させていけるように、学校・家庭・地域が「一日一日を大切に(ていねいに)」を共有していきましょう。

